



なり手がなかった？

町議会史上はじめての無投票を経験して

10月9日は八丈町議会議員選挙の告示日でした。「無投票になりそうだ」といううわさが流れていたため、私は選挙運動の準備をどこまですればいいのかわからず不安をかかえながら当日を迎えました。



立候補の締め切りは午後5時。それまでは届け出をする人が出るかもしれないので、私はこれまで通り朝から夕方5時まで選挙カーに乗って支援を訴えました。

結果は無投票になり、私は脱力感と少しの安堵感に浸りながらも、やはりこれは良くないとの思いがつよく、なぜ無投票になってしまったのかを考えてみました。

町の支出、候補者の負担は減ったの？

住民からは「無投票になれば税金が節約できる」という声がかかりましたが、町は約500万円の予算の半分以上を準備で使ったとのことでした。一方、候補者は投票があることを前提に、選挙カーや運転手、ウグイス嬢の手配などを進めていたので、無投票による支出減は、運転手の報酬とスタッフの食事等の費用だけです。町も候補者も支出はそれほど減らなかったのです。

なぜ無投票に

今、地方議会では議員のなり手不足が深刻化しています。人口1万人未満の町村で27%が無投票という状況も見られます。今回の無投票も、なり手不足が原因だったのでしょうか。

八丈町の選挙で当選する決め手は、まず「親戚が多い」「同級生がいる」「組織や団体、政党に属している」ことです。つまり地縁血縁の選挙だといえます。有権者と議員の距離が近いために、日頃お付き合いのある人に投票しようと思うのは自然な感情です。しかし、町をよくしたいという意欲はあっても、若かったり島外出身者であったり組織に属さない人は、支援者をまとめられない可能性が高く、これが立候補を阻む一因になっているのかもしれない。公務員の兼職禁止なども理由の一つと考えられます。



今後の対策は

誰もが自由に立候補できるようにするにはどうすればいいのでしょうか。地方議会で提案されている対策としては、「議員報酬を上げる」「住民の関心を喚起する」「自治体と請負契約がある企業役員の兼職を認める」などがあげられています。これらを八丈町にあてはめると、報酬引き上げは財政状況から難しい。住民に感心をもってもらうために議員と有権者の懇談会を持つとか、夜間や休日に議会を開くなどは、住民に対して議員活動を報告する議員が少ないのでこれは必要だと思います。町と取引のある経営者が議会に入ることは、行政との癒着の心配もあります。

定数の削減へ

有権者の審判を受けないまま議員が生まれる状況は、今回だけにしなければなりません。私が議員になって2年後の2004年に16人から14人に定数が削減されました。もともと私は議会には意見の多様性が重要だとの考えから定数削減には反対でした。しかし今人口減少が進む中で、現在の14人が妥当なのかは検討の余地があると思います。選挙前は14人の定数で2人欠員の状態でした。12人でなんとか議会運営ができていたことや、人口減で有権者数も減っていることを考えると定数削減は避けられない状況です。

前ページより続く

議会への期待は 女性議員がいない地方議会が多くある中で、女性議員5人は特筆に値します。新人が3人いて若い人もいることで、議会に新しい風を吹き込んでくれるという期待感もあります。議会は議論があってこそ意味があります。私も古参のひとりとして議会を盛り上げていきたいと思えます。



地方との交流の大切さを知る 和歌山県田辺市

和歌山県田辺市の方々が来島し、10月23日にサンマ漁船団遭難にまつわる「感謝の碑」の除幕式が行われました。前日は島内で町との交流会がもたれ、「感謝の碑」が建てられるまでのいきさつを知る機会に恵まれました。



明治25（1892）年12月、那智勝浦町沖で遭難事故があり、そのうち210人の漁師が八丈島などに漂着し、島民に助けられ1ヵ月余りお世話をしてもらったということです（八丈島179人、青ヶ島31人、御蔵島19人）。

その恩を忘れてはいけなないと、遭難で亡くなられた方の子孫らが互いに呼びかけて「八丈島に感謝の碑を建てる会」を立ち上げたのが昨年のことでした。碑を建てる費用も会の方々の募金とうかがい、頭が下がる思いでした。その思いを受け止め、これからは八丈の祖先の行動を、誇りをもって後世に伝えていく必要があると思いました。「情け島」の面目ここにありです。

南大東島

明治時代に八丈島の有志23人が船

で南大東島を目指し、島へ上陸して原野だった土地を開拓したことがこの島の歴史の始まりだったそうです。それ以来、八丈島の文化を大切に継承し、それが食文化や言葉に伝わっています。南大東島からは毎年中学生が10人くらい島を訪れていて、生徒はホームステイして町の中学生と交流しています。以前八丈町からも中学生が訪問していましたが、今は行っていません。

10月29日には南大東村の議員など10人が来島し、八丈町の議員との交流の機会を持ちました。島と島との交流はこれまでも毎年行われてきました。若者の島外流出など、互いに島特有の課題を抱えているからこそ、こうした縁ある島との交流は意義あるものだと思います。

10月25日 臨時議会

選挙後はじめての議会があり、議長、副議長の選出と、各常任委員会（総務文教委員会、経済企業委員会）の構成員と委員長、議会運営委員長が決まりました。（敬称略）

- | | |
|--------------|----------|
| 議長 奥山博文 | 副議長 浅沼憲春 |
| 総務文教委員長 山本忠志 | |
| 経済企業委員長 奥山幸子 | |
| 議会運営委員長 岩崎由美 | |
| 監査委員 小澤一美 | |

私が委員長になった経済企業委員会は観光、産業、土木、企業課（水道、バス、病院）などの担当です。あらたな視点で町の施策を見直したいと思います。

このほか、八丈富士牧野運営審議会と八丈島歴史民俗資料館移転・整備委員会の委員を務めることになりました。資料館の整備は期限が4年半しかありませんので、順序だててすみやかに前進できるよう求めていきます。



2018年9月議会 一般質問



1. 災害時の避難場所と高齢者支援の仕組みづくりを

今、全国いたるところで様々な種類の災害がおきている。西日本豪雨の被害を教訓とし、災害対策を強化しておくことが大切であると思うが、町の考えは。

(1) 地震、噴火、津波など、それぞれに対応したハザードマップをもとに、どの地区がどの避難所に入るのかを決めておく必要はないか。

町 岡山県真備町に職員2人を派遣し避難所支援を行ったが、八丈町への応用の難しさを認識した。避難所ごとの地区割りは八丈防災計画に掲載している。1人あたりのスペースも確保して人数を決めている。八丈富士噴火時の防災を含め、現状に対応した見直しを行い、整理ができれば住民に伝えたい。

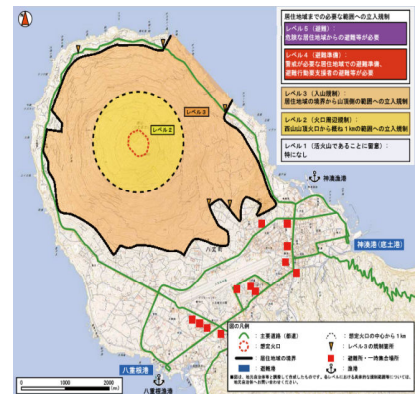
(2) 地区ごとの高齢者リストをもとに、誰がだれを助けるのかを決めておく必要はないか。地域の人と連携して支援をおこなうべきでは。

町 災害時の要支援者は139人。消防団が対応することになっている。地域の方との連携は共助の方向で進めていきたい。

(3) 町役場のほか、マットや毛布などの準備など、各避難所の機能を充実させ、使いやすい避難所しておくべきではないか。厨房も使われておく必要がある。

町 庁舎内の研修施設は床張りだが、ゴザと毛布は用意している。

避難時には厨房だけを使うことにはならないので多面的に対応する計画だ。八丈島の噴火警戒レベル(気象庁)より



(4) 南海トラフ地震について、国から臨時情報が出された場合、町として避難勧告を出すか。

町 被災状況と情報の出方したいなので、その時に対応したい。

2. 町の補助金の仕組みを明らかに

町の補助金には様々なものがあり、住民にとってなくてはならない支援となっている。ただ、内容を見ると補助の割合が異なっているので、仕組みや理由がはっきりしない。補助金の仕組みをわかりやすく説明していただきたい。

(1) 補助金にはどのような種類があるのか。

町 ①国や東京都の政策に基づき町を通して補助するもの ②町単独の施策として補助するものがある。

(2) 自己資金に対する一定割合を補助するものと、ほとんど全額を補助するものとを、どのような基準で決めているのか。全額補助が多いが、これは委託金ではないか。

町 補助事業審査委員会で公益性、必要性、妥当性を審議し、可否や額を決めている。申請に応じて補助しているので補助金と考える。

(3) 補助を受けている団体または個人は、事業内容と収支報告を提出しているか。

町 報告は義務付けられているので、すべての団体で報告を出している。

再質問 補助を受けている団体は独自に報告書を作るべきだが、町職員が作っている事例もあると聞く。そうであれば厳しく指導すべきだ。

町 手伝っている団体もある。一義的には団体がつくるべきで、指導していく。

9月議会の一般質疑から

職員研修費用の削減は 有人国境離島補助金による航空運賃の値下げが実施された。町の職員は研修などで上京することも多いと思うが、約1年が経過して研修費用はどれくらい削減できたか。

町 昨年9月からスタートしてまだ1年を経過していないので、詳しい数字はだせません。(のちに200万円程度にはなると思われると概算を示した)

障がい者雇用の状況は 障がい者雇用についての法定雇用率の引き上げ(2.3%→2.5%)により、国の省庁で基準を満たしていないことが明らかになった。町では以前3人だったが、人数は変化したか。

町 役場庁舎内でみると、3人になっていて、法定雇用率をクリアしている。

町立八丈病院の建替え 施設はすでに20年以上経過しているし、毎年の修理費もかかっている。いずれ建替えが必要になってくると思うが、今から基金の創設が必要ではないか。

町 今後の課題として検討させていただく。

介護認定の基準 最近、介護認定を受けて介護度が低くなったことによって、これまで借りられていた車イスが借りられなくなったという事例があったと聞いている。認定そのものが厳しくなったということはないか。

町 介護認定の基準が厳しくなったという事実はない。ひきつづき、ていねいな認定を心がけていく。

防災無線のデジタル化 国の方針で防災無線のデジタル化が進められている。事業には数年、事業費は6億円程度かかると報告があったが、町の財政事情では難しい。国に対し財政支援の要望は進めているのか。

町 まだしていない。現状を詳しく分析したうえで、国に要望していく考えだ。



リトアニア ドヴァリヨナス音楽学校 親善コンサート



今年8月に国際交流員としてマンタスさんがバルト三国のひとつのリトアニアから八丈町に赴任してきました。現在、企画財政課で島の魅力を島外に発信する仕事をしています。

11月11日にリトアニア共和国のドヴァリヨナス音楽学校の合唱団34人が来島し、12日に町のホールでコンサートが開かれました。団員はみな14~15歳の女性で、若く美しい声がホールいっぱいに響きました。素晴らしいハーモニーは、まさに天使の歌声でした。

これを機にリトアニアの事をもっと知りたいと思いました。

編集後記

11月半ばに高校の同級生7人が観光で来島してくれた際、観光スポットを回る途中、地熱館を訪ねました。館長のていねいな説明の中に、すでに9月30日には地熱発電は停止しているという話がありました。これからの島の電力は、数年間東京電力のディーゼル発電だけで賄われるそうです。

一時的にしても、町の誇るべきものがなくなって寂しい思いもありますが、今はオリックスの頑張りに期待しましょう。

